

都道府県・指定都市番号	1	都道府県・指定都市名	北海道	研究課題番号・校種名	1 高等学校
				教科名	総合的な探究の時間
研究課題	<p><b>学習指導要領の趣旨を実現するための学習・指導方法及び評価方法の工夫改善に関する実践研究</b></p> <p>○総合的な学習の時間の取組を基盤とし、質の高い探究を通して資質・能力を育成する「総合的な探究の時間」の実現に向けた指導計画や「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善、学習評価の在り方に関する研究</p>				
学校名 (生徒数)	<p>ふりがな 学校名 (生徒数) ほっかいどうくしろこうなんこうとうがっこう 北海道釧路江南高等学校 (598人)</p>				
所在地 (電話番号)	<p>北海道釧路市光陽町 24 番 17 号 (0154-22-2760)</p>				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	<p>http://www.k-konan.hokkaido-c.ed.jp/?page_id=291</p>				
研究のキーワード	<p>「江南力 (自己肯定力・思考力・行動力・発信力・想像力)」 「探究・ガイダンス部」 「ルーブリック」</p>				
研究結果のポイント	<p>○ 新たな分掌として、「探究・ガイダンス部」を設置し、校内組織として全年次の探究学習を統括することで、本校の探究活動に係る課題を発見し、その解決を円滑に行うことができた。</p> <p>○ 本校が生徒に育みたい資質・能力である「江南力 (自己肯定力・思考力・行動力・発信力・想像力)」に係るルーブリックを作成することができた。</p> <p>○ 生徒の探究の質の向上を図るための3年間を見通した指導計画を作成することができた。</p> <p>○ 保護者・同窓生による「探究サポーター制度」を構築し、インターンシップ、ボランティアも含めた地域の活動に生徒の参加を促すことにより、参加した生徒の探究活動への意欲を喚起することができた。</p> <p>● 生徒に自身の興味・関心に気付かせる機会を与えることはできたが、その気付きを掘り下げる振り返りや、探究の質の向上を図る課題の設定について一層の研究が必要である。</p> <p>● 活動時間や ICT 環境の制約により、学びが深まっていかない生徒も多いことから、ポートフォリオを活用した個人内評価を踏まえた指導方法を確立する必要がある。</p>				

1 研究主題等

(1) 研究主題

「高い理想を抱き、自ら課題を発見し、自ら学び、考え、判断し、よりよく解決する」資質・能力を育む「総合的な探究の時間」における組織体制の構築及び指導方法の研究
--

(2) 研究主題設定の理由

ア 学校の現状や課題

本校では、平成 30 年度から、生徒自身が「生徒の興味・関心に基づく課題」及び「職業や自己の進路に関する課題」を設定する取組を進めた。質の高い探究を通して、資質・能力を育成するための教育課程の開発を始めて2年が経過し、内容の充実を図る指導計画の作成や、持続性のある業務運営を図るための組織体制の構築が必要であることが分かった。

イ 研究の目的

(ア) 内容の充実を図る指導計画の作成と改善

生徒自身が興味・関心を抱く課題を見出し、探究の見方・考え方を働かせながら、自己の在り方生き方や社会・職業・学問に関する課題について探究し解決することを通して、①「知識・技能 (探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、それを生きて働く知識とする。)', ②「思考力, 判断力, 表現力等 (自己の興味・関心に基づいて問いを見出し, 自分で課題を立て, 情報を集め, 整理・分析して, まとめ・表現することができる。)', ③「学びに向かう力, 人間性等 (探究活動に主体的, 協働的かつ計画的に取り組むとともに, 互いのよさを生かしながら, 社会の中で自己実現できる力と

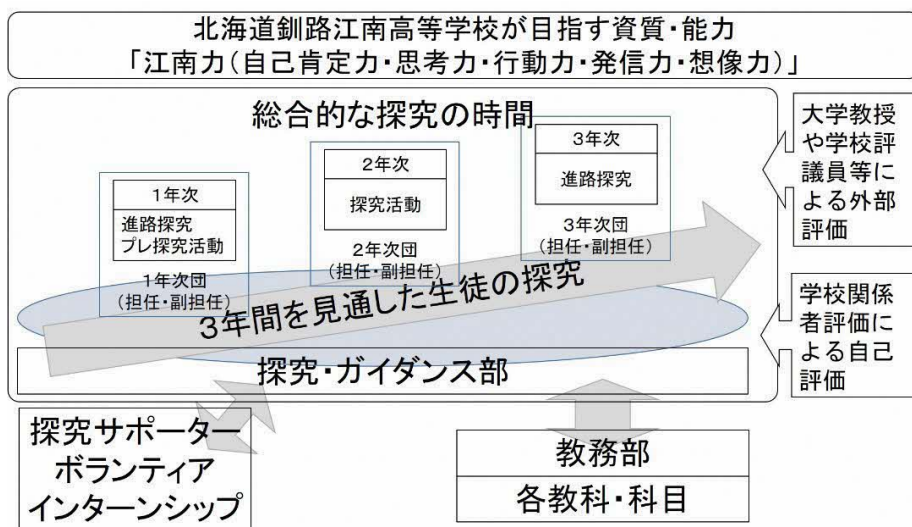
態度を身に付ける。）」といった、資質・能力を育成する指導計画を作成し、その実践と改善を行う。

(イ) 持続性のある業務運営を図るための組織体制の構築

働き方改革及びカリキュラム・マネジメントを踏まえた「総合的な探究の時間」に係る業務を円滑に運用できる横断型組織を構築する。

(3) 研究体制

- ア 探究・ガイダンス部が主体となり、「総合的な探究の時間」の指導計画及び研究計画を立案し、ホームルーム担任や副担任等が分担・協力して授業を行い、研究を推進する。
- イ 「総合的な探究の時間」と各教科・科目等の学習との関連性については、教務部と探究・ガイダンス部が連携し、3年間を見通した研究計画を作成するなど、研究を推進する。
- ウ 大学教授や学校評議員等による外部評価により、指導方法の一層の改善・充実を図る。
- エ 持続性のある業務運営を図るため、組織体制を整備し、新たに整備・構築した組織体制によりア及びイを実施する。



(4) 2年間の主な取組

	実施時期	取組内容
令和2年度	前期	<p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間指導計画の作成，全体ガイダンスの実施</li> <li>・学校関係者評価を踏まえた自己評価</li> </ul> <p>【1年次】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進路探究活動のガイダンス，進路探究レポートのとりまとめ・結果の分析，大学アドミッションポリシーの研究</li> </ul> <p>【2年次】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・探究レポート発表会，講義（リサーチクエスチョンの作成方法，調査手法）</li> </ul> <p>【3年次】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進路に係る志望理由書の作成，志望分野の背景に係る学習，選択学習第Ⅰ期（①面接，②小論文，③集団討論，④ポートフォリオ+受験プランの作成，⑤個人探究）</li> </ul>
	後期	<p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校関係者評価による自己評価及び学校評議員等による外部評価</li> <li>・研究に係る研修会（1年次の取組における成果と課題の検証，2年次に向けた課題の解決に係る方策の検討，研究計画の作成）</li> <li>・「総合的な探究の時間」と各教科・科目等との往還的な関連を図る単元配列表の作成，ICT環境の利活用に係る視察及び教員研修</li> </ul> <p>【1年次】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小論文研究，プレ探究活動ガイダンス，探究発表会「江南探究フォーラム」の実施</li> </ul>

	<p>【2年次】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義（リサーチクエスションの再考），探究発表会「江南探究フォーラム」の実施，「GPS-Academic」の実施，振り返り</li> </ul> <p>【3年次】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・選択学習第Ⅱ期（①面接，②小論文，③集団討論，④ポートフォリオ+受験プランの作成，⑤個人探究）</li> </ul>
--	--

## 2 研究内容及び具体的な研究活動

### (1) 研究内容

- ア 3年間を見通した生徒の探究の質の向上を図る指導計画を作成する。
- イ 持続性のある業務運営を図るための組織体制を確立する。
- ウ 探究の質の向上を図る課題設定の手法を確立する。
- エ ポートフォリオの有効な活用法を確立する。

### (2) 具体的な研究活動

ア 生徒及び教員に対して，本校が生徒に身に付けさせたい資質・能力である「江南力」について，共通理解を図る取組を行うとともに，各年次の指導の方向性を揃えるため，総合的な探究（学習）の時間の3年間を見通した計画を立案・作成し，各年次における指導の土台とした。各年次の主な活動は次のとおり。

#### (ア) 1年次

大学が求めている力や探究活動の必要性を生徒が感じる機会として，アドミッションポリシー研究を行った。また，プレ探究活動を小論文研究と隔週で実施した。

#### (イ) 2年次

「生徒の興味・関心に基づく課題」に結び付けるため，個人研究として探究を実施した。

#### (ウ) 3年次

進路に係る志望理由書を作成するとともに，小論文及び集団討論など，「選択学習」を実施した。

イ 持続性のある業務運営体制の構築を図るため，探究・ガイダンス部を分掌として設置した。また，前期末及び年度末反省を踏まえ，現在の体制を見直し，今後の探究・体験的活動の質が高まるよう，体制の改善を図った。また，先進校の視察を行い，本校の分掌組織や指導体制について検証する取組を行った。

ウ 探究活動のより一層の充実を図るため，課題設定において教科・科目等横断的な探究の視点を取り入れ，各教科・科目等で育成する資質・能力を，総合的に生かすことができるよう，「総合的な探究の時間」と各教科・科目等との往還的な関連を図る単元配列表を作成している先進校の視察を行った。

エ 生徒が自身の体験を記録したり，振り返ったりすることで，自身に必要な資質・能力が身に付いたかどうかを把握できるよう，自己評価を行う機会を設けた。

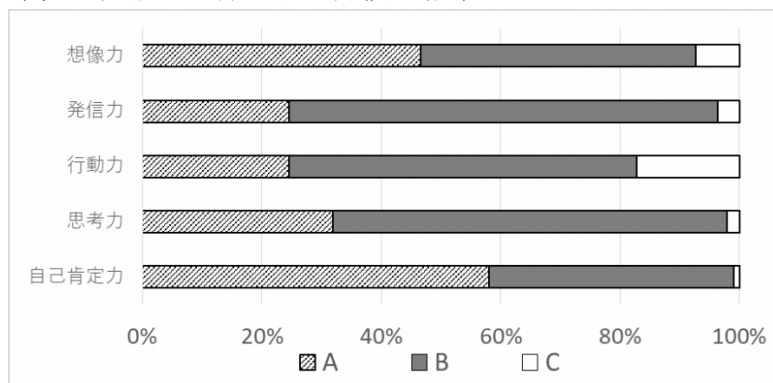
## 3 研究の成果と課題（○成果●課題）

- 全年次の探究学習を統括する「探究・ガイダンス部」を設置することにより，教育計画に基づく重点目標や具体的方策等の実施状況に対する評価が可能となり，課題発見及びその解決を円滑に行うことができた。
- 11月に本校の育成を目指す資質・能力である「江南力（自己肯定力・思考力・行動力・発信力・想像力）」に係るルーブリックを表のとおり作成した。2月に実施した「江南探究フォーラム」において，ルーブリックに基づいた自己評価を生徒が行ったところ，図のように「自己肯定力」をAと評価する生徒が多く見られた。このことは，生徒自身が興味・関心を抱く課題を設定したことや，生徒が探究活動の方法や技術を身に付け，探究活動に受け身ではなく積極的な姿勢で取り組んだことが要因だと考えられる。

表 1, 2年次のルーブリック

	A	B	C
自己肯定力 (主体性)	自ら意思をもって探究活動に積極的に挑戦している。	自らの意思をもって、探究活動を進めている。	学校の取組として探究活動を義務的に進めている。
思考力	調べた事実に基づいて客観的に物事を進めており、緻密で説得力がある。	調べた事実に基づいて客観的に物事を進めることができおり説得力が出るよう努めた。	感想や主観が多く、説得力に欠ける。
行動力	考えたり調べたりするだけにとどまらず、粘り強く行動(検証)したり、多様な人と対話・協力したりできた。	考えたり調べたりするだけにとどまらず、行動(検証)をすることができた。	自分なりに考えたり調べたりした。
発信力	活動・発表を通して周囲に好影響を与えたり、社会的な価値を創り出したりした。	活動を正確で分かりやすくまとめ、発表することができた。	活動をまとめて発表することができた。
想像力	実現したい未来に向け、問いや仮説を深め続け、計画することができた。	検証可能かどうかを吟味して問いや仮説を立て、計画することができた。	自分なりに問いや仮説を立てることができた。

図 2年次の江南力に係る自己評価の結果



- 進路に係る志望理由書の作成、小論文及び個人探究など、生徒の進路に繋がる3年次における進路探究を終えたことにより、平成30年度から始めた、生徒の探究の質の向上を目指した3年間を見通した指導計画の見直すことができた。
- 探究活動のフィールドを地域へ広げるための一助として、保護者・同窓生による「探究サポーター制度」を構築し、インターンシップ、ボランティアも含めた地域の活動に生徒の参加を促すことにより、探究活動への意欲を喚起することができた。
- 生徒自身の興味・関心を引き出す機会を与えることはできたが、探究の質をより一層高めるため、探究の過程のうち、「課題の設定」に焦点化した取組の充実を図る必要がある。
- 限られた授業時間やICT環境の制約により、学びの深まりが十分ではない生徒がいることから、ポートフォリオを活用し、活動の進捗状況などを自己調整するよう働きかける必要がある。

#### 4 今後の取組

- (1) 本研究の成果と課題を踏まえ、探究・ガイダンス部を中心として、学校教育計画に重点目標を設定する。また、「総合的な探究の時間」の充実を図るため、重点目標達成に向けた具体的な方策と評価の観点を設定し、計画、実施、評価、改善というカリキュラム・マネジメントのサイクルを機能させる。
- (2) 教科・科目等横断的な視点による探究学習を取り入れ、各教科・科目等で育成する資質・能力を総合的に生かすことができるよう、単元配列表を作成するなどして、「総合的な探究の時間」と各教科・科目等との往還的な関連を図る。
- (3) GIGAスクールにより整備されたICT環境を利活用し、生徒の自己評価を充実させる。